



2019年11月15日

早稲田大学 政治経済学部

## 『大学入試英語成績提供システム』の稼働延期に伴う当学部の対応について

当学部では2021年度以降の一般入学試験において、英語外部検定試験の得点を活用することを決定し公表してきましたが、2019年11月1日に文部科学省が『大学入試英語成績提供システム』の稼働を延期することを発表したことに伴い、当学部の2021年度以降の一般入試について下記のとおり変更します。

なお、当学部のこの間の一連の入試改革に対する考え方、およびこの度の入試制度変更における考え方については、別紙を合わせてご参照ください。

### 記

#### (1) 変更点等について

当初予定していた英語外部検定試験（15点）を可否判定に用いることを取り止めます。また、学部独自試験の配点を85点から100点に、試験時間を90分から120分に変更します。これにより、当学部の2021年度以降の一般入学試験は次のとおりとなります。

【政治学科・経済学科・国際政治経済学科共通、合計200点満点】

#### 1) 大学入学共通テスト（100点）

以下4科目を25点ずつに換算します。

- ① 外国語（以下いずれか1つを選択）
  - ・英語（リスニングを含む）
  - ・独語
  - ・仏語
- ② 国語
- ③ 数学Ⅰ・数学A
- ④ 選択科目（以下いずれか1つを選択）
  - ・地理歴史「世界史B」「日本史B」「地理B」から1科目
  - ・公民 「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」から1科目
  - ・数学 「数学Ⅱ・数学B」
  - ・理科 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目  
あるいは「物理」「化学」「生物」「地学」から1科目

#### 2) 学部独自試験（100点）

※学部独自試験については、これまでお知らせしているとおり、日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式とし、記述解答を含むものとします。なお、従来的一般入学試験における「英語」や「国語」の試験とは異なるため、科目名称は「総合問題」とします。

※新たに英語4技能のうち、「書く」能力を問う問題を設ける予定です。

※学部独自試験の配点や試験時間等を変更することに伴い、2020年3月を目途に学部独自試験のサンプル問題を新たに公表する予定です。

これまでの発表内容からの変更点は下表のとおりです。

	変更前	変更後
試験の概要	1)大学入学共通テスト 2)英語外部検定試験 3)学部独自試験  上記 1)~3)の合計 (200 点満点) に よって、選抜する。	1)大学入学共通テスト 2)学部独自試験  上記 1)~2)の合計 (200 点満点) に よって、選抜する。
配点	1)大学入学共通テスト (100 点) 2)英語外部検定試験 (15 点) 3)学部独自試験 (85 点)	1)大学入学共通テスト (100 点) 2)学部独自試験 (100 点)
学部独自試験の 試験時間	90 分間	120 分間

## (2) 備考

- 1) 募集人員は、これまでお知らせしているとおり、300 名 (政治学科 100 名、経済学科 140 名、国際政治経済学科 60 名) とします。
- 2) 大学入学共通テストで課す科目に変更はありません。
- 3) 今回の変更に伴い、2021 年度以降の当学部の一般入試を受験するにあたって、英語外部検定試験のスコアの提出は不要となります。
- 4) 一般入学試験における英語外部検定試験の活用については、政府による検討および準備の状況に合わせて、今後も引き続き検討していきます。
- 5) 2020 年 3 月に公開予定の学部独自試験のサンプル問題は、日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式であり、記述解答を含む点において、既に 2018 年 8 月に公開したサンプル問題を踏襲するものとお考えください。

※2018 年 8 月に公開したサンプル問題は以下の URL よりご確認ください。

<https://www.waseda.jp/fpse/pse/assets/uploads/2019/11/355e75154d809c6a8d5f3e65665b6881.pdf>

以 上

### 【本件に関するお問い合わせ先】

早稲田大学政治経済学部事務所入試係

メール : [seikei-admission@list.waseda.jp](mailto:seikei-admission@list.waseda.jp)

2019年11月15日

受験生ならびに関係者の皆様へ

早稲田大学 政治経済学部

学部長 川岸 令和

**文部科学省による『大学入試英語成績提供システム』稼働見送りの発表に際して**

2019年11月1日に、文部科学省は、「英語民間試験を、経済的な状況や居住している地域にかかわらず、等しく安心して受けられるようにするためには、更なる時間が必要だと判断」し、2021年度入学試験からの『大学入試英語成績提供システム』導入の延期を発表しました。

当学部では、“Philosophy, Politics, and Economics” (PPE) の理念にのっとり、共生社会の善き生と正義の実現に寄与する学問の追求の中から、在野の精神に立ってグローバル社会の未来を切り開く自律的な次世代を創出することを目指してきています。その趣旨から、2010年度に英語学位プログラムを開始し、多様で優れた留学生を受け入れ、既存の日本語学位プログラムとの相互浸透による、グローバル・パースペクティブをもつリーダー養成を実践してきています。この教育目標の実現をより進展させるため、2019年度より、学科にかかわらず政治学・経済学・公共哲学の基礎を修め、主要な学科目のほとんどを日英両言語で学ぶことができるハイブリッド型の新カリキュラムを導入し、マルチカルチュラルな環境で、地球社会における望ましい共生を実現しようと努める人材を育成しています。これに合わせて、入学後に当学部の教育内容を十分に吸収するために求められる一定の英語および数学の力を含む「高い総合的基礎学力を持ち、グローバルな視野から論理的に思考できる学生」を獲得すべく、2021年度から一般入学試験の制度を改めることにしました。その際、実用的な英語能力を測定するためには、4技能型（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の試験を実施することが望ましいと考え、英語外部検定試験を全面的に活用する予定としていました。

しかし、今回、文部科学省が『大学入試英語成績提供システム』を「自信をもって、受験生の皆様にお薦めできるシステムになっていない」と判断したことを受け、当学部としても、『大学入試英語成績提供システム』および『英語民間試験』を2021年度以降の一般入学試験において新たに利用することをさしあたり中止せざるを得ないと判断しました。

その一方で、当学部での学習を通じて学生一人一人が具える潜在力を十分に発揮するためには、英語4技能をバランスよく伸ばすことは重要と捉えており、その素養を持つ学生を求める姿勢に変わりはなく、今後も政府の検討状況に合わせて、一般入学試験における英語外部検定試験の活用を引き続き検討していきます。

なお、当学部では、ネイティブスピーカーの教員1名と学生4名の環境で英語を学ぶ“General Tutorial English”、英語で自分自身の意見を発信する力を伸ばすための“Academic Writing and Discussion in English”といった科目や、同内容の科目を日本語・英語の両言語にて開講する日英ハイブリッド型のカリキュラム体系、さらには、新入生全員を対象としたTOEFL試験の実施、海外留学の奨励などによって、学部教育全般の学びの中で、英語4技能の向上を図る教育体系を用意しています。当学部を志望される受験生の皆様におかれましては、入学後に備え、高校生活の中でも英語4技能の向上に努めていただくことを切に所望しています。

最後に、2021年度一般入学試験が迫る中で入試制度の一部を変更することとなり、これまで当学部の受験に向けて準備を進めてこられた受験生や関係者の皆様にはご迷惑をおかけすることになり、大変心苦しく存じますが、なにとぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

以上